

あなたならどうする？（学園）

大学において……
社会において……
日本において……
世界において……

学園

小島保雄委員長

大学立地の具体的攻撃は日々に発生され、いまや自由のない状態にある。中教審答申に従事する明大当局（中川一派）は自らの大學を権力に満ち、その代償に名譽と財産補助を受けている。

ロッカウト体制（鉄錠の不利益と時局開拓）・学館内鎖、サークル室・書店・学館前広場の労働、入口の守衛、授業時間の短縮、教育内容の反対化、学生会の自治権への等がその中教審大学化の一環としてある。大学当局は、こゝらうな非人道的、非政治的、非教育的内容から成る中教審大学化を物質力（暴力）に於ける完成を企んでいたが、このことは何にぞ意味するか。

即ち、日本支配者階級（日本帝主主義）の要請に答え、矛盾で肥大化した日英独資本主義体制を没主体制に成る機械的、部族的人間を養成し、杆打に迷ひ立たぬ大學の杆打改悪であり、そのシとは、曰帝の新殖民地主義に見合う内内体制ノ帝主主義的再編の一環なうである。

過去にありて、日本帝主主義（戦前の天皇統治時代）は日内市場の行詰りを打開する政策に後進日本支配を軍事的によって開始されたが、それがあの太平洋戦争であった。朝鮮、台湾を支配下にあき、中日へ侵略したのがその始まりであったが、それは日本人民、あるいは中国人民のための戦いではなく、一部支配階級（軍部一貴族一家政院）の策動にあった。彼ら支配者ども々欲、故に侵略戦争にあり、罪もない多くの中日、朝鮮、南アジア人民が殺された。その戦争に危んで抗戦したのは我々の親達ごくがかったのが、权力の策動に抗するべくして、杆打に奮闘こまね人相しをした被虐によつて杆打されといふのが現代社説。

現代日本はアスパシック、日米共同声明、安保体制などにより、確実に韓日、台湾、東南アジア諸国へ経済的、政治的侵略を周辺化しており、その保障の裏付けに自衛隊が四次、五次防衛、核、武装化＝軍主主義復活が成され、それもまた杆打イデオロギー化の一環に、日内教育、あるいは企業の再編が並列スレーブと進行しきり。

大学の中教審化などはその好例である。我々は、現在進行中の帝主主義に怒りをもつて対決すべきであら。太平洋戦争の犯罪を再び我々の手でくり返さないために。

毎日的な我々の使命とは、場所的現在における反戦、反安保戦争を主導的に推進することであり、それはとりむなあらず帝主主義に対する戦いである。我々は明大に育なしきり。明大こそ月日開拓へきる。

大學の刑務所化を許さない！①

ほくらの周囲には刑務所と同じ様な高い鉄錠があり、もさみ、八口サやハリ刑務所と同じ様に守衛が、ドアネスキのととを眼でほくらを監視している。

教室は、といふば人間的交流のない「尊友」が10年1日へじとめ教授という名の者の、非社会的立場から言葉を専門の名にあい、一一向前に押しつけられ、そこにはコミュニケーションは存在しない。人間は環境によつて、とみ在在が規定されいくと云ふが、いるが、この様な環境からいがなる人物が育とうか。

ほくらは尊友を媒介に多くの尊友と交渉をもう、語る尊友ながら社会融入真理を見極め、実践によつて現実化する作業を不斷に進展し、その過程で自己形成しなければならない。

しかし、それは不可能な願望にすぎない。权力と大学当局のみによつてその入場が奪われてしまったからである。

ほくらは、自由を欲する。高い鉄錠の外、監視付きの校内、夜九時まで、学館・サークル室・広場の床錠、尊友と人交流の場（空間）の皆無。ほくらは、なにも入からも束縛されず、その場へ行けば尊友が居て、深夜までサークル活動や研究活動入公衆の自由な場が欲しい。そういう場で自己形成したい。

权力－大学当局に奪われた自由を取り戻そう。ほくらは人々の要求に応じた尊友、活動をも自由な大学を建てる。